

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	釜石オープン・フィールド・カレッジ推進事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/生涯学習・スポーツの振興	担当課	総合政策課
施策①	学びと実践が循環しつながりを出創する生涯学習社会の形成	電話番号	0193-27-8413
施策②	大学や関係機関・団体等との連携強化	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	新規
4つの柱	教育の充実	補助・単独	補助
事業期間	令和6年度～令和8年度		
事業の概要			
第六次釜石市総合計画に掲げる「一人ひとりが学びあう」地域の実現に向け、市全体が学びとなる「釜石オープンフィールドカレッジ」の考えのもと、修学旅行プログラムの構築や各種研修プログラムの構築、ワーケーション・スタディーケーションの推進、インターンシップの推進など、様々な「学び」の場を創出することで、釜石の未来を担う人材を育成するとともに、持続的な交流人口の増加を図る。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題
集客力のある観光施設が少ない本市において、「学び」のコンテンツを活かしたプログラムを構築することで、交流人口を増やしたいが、現状は、各担当部署のイベントに依存した観光誘客体制となっている。部局横断的に「学び」や「地域貢献」などの価値を多面的に創出するとともに、来訪の度に、新たな学びがある深い体験が出来るなど、来訪後の関心の継続性をどのように保ち、交流人口の増加につなげていくかが課題となっている。
目的
本市の豊富な「学び」のコンテンツを活かしながら、当事業において、フィールドスタディプログラムを造成し、新たな「学び」の場を創出することで、域内の人々が「地域の魅力」や「釜石らしさ」を改めて認識し、釜石の未来を担う人材を育成するとともに、域外からの「釜石で学びたい」来訪者を増やし、持続的な交流人口の増加を図ることを目的とする。

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
・継続した「交流」を促進するための計画を策定する。・地域コーディネータの育成など、来訪者の受入れ体制の強化を図る。・来訪者へのモニタリング調査等を実施する。・「学び」を活かした魅力的なプログラムの構築（修学旅行プログラムの構築・各種研修プログラムの構築・「ワーケーション」や「スタディーケーション」の推進・インターンシップの推進など）・市内外に「学びのまち」の周知を図る。（ウェブサイトの作成など）		
事業費		
R 6	R 7	R 8
15,000 千円	15,000 千円	15,000 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	見直し余地あり	適切	適切
評価結果			
本市では現在、修学旅行プログラムの構築や各種研修プログラムの構築、ワーケーション・スタディーケーションの推進、インターンシップの推進など、様々な「学び」を提供できる環境が整ってきている。現在実施している事業を効率よく連携させ、事業者・関係各課と連携しながら交流人口の増加を図られたい。			

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	放課後子ども教室推進事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/生涯学習・スポーツの振興	担当課	まちづくり課
施策①	学びと実践が循環しつながりを出発する生涯学習社会の形成	電話番号	0193-27-8454
施策②	地域全体で子どもを育む環境づくりの推進	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	継続
4つの柱	教育の充実	補助・単独	補助
事業期間	平成19年度～令和8年度		
事業の概要			
子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するため、地域住民の参画を得ながら、子どもたちに勉強やスポーツ、文化活動、交流活動などの学びの機会を提供し、安全・安心な活動拠点としての居場所づくりを行うもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題	
少子化や親の共働き世帯の増加等の社会的背景により、放課後の子どもたちの居場所づくりが課題となっている。放課後等における子どもの活動拠点として設置している放課後子ども教室は、子どもと地域を結び、安心安全に遊び・学び・育つ場として理解浸透を図る。	
目的	
地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、活動を通じて、子どもたちの社会性・自主性・創造性等豊かな人間性を育成するとともに、地域社会全体の教育力向上を図り、地域の活性化や子どもたちが安心して暮らせる環境づくりを目的とする。	

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
<ul style="list-style-type: none"> 放課後等における子どもたちの活動拠点の確保 活動の企画調整を行う協働活動支援員（コーディネーター）の配置 地域住民等が子どもの見守りや学習サポートを行う協働活動サポーター（安全管理員）の配置 		
事業費		
R 6	R 7	R 8
3,252 千円	4,205 千円	4,205 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	適切	見直し余地あり	適切
評価結果			
<p>本事業は1回あたりの利用者が10名弱あることからニーズがある事業と言える。また、保護者やサポーター、学校側からも肯定的な意見が多いため、全校での実施が望ましいと判断される。</p> <p>現在、放課後子ども教室の設置に至っていない唐丹小学校や白山小学校については、人材確保を優先的に実施し、将来的な設置に向けて検討を進められたい。</p>			

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	地域学校協働活動体制推進事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/生涯学習・スポーツの振興	担当課	まちづくり課
施策①	学びと実践が循環しつながり創出する生涯学習社会の形成	電話番号	0193-27-8454
施策②	地域全体で子どもを育む環境づくりの推進	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	継続
4つの柱	教育の充実	補助・単独	補助
事業期間	平成31年度～令和8年度		
事業の概要			
地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていく地域学校協働活動本部を設置し、地域と学校の連絡調整を行う地域コーディネーターを配置することで、地域住民等の参画を得ながら、様々な地域学校協働活動を行うもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題	
地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていく地域学校協働活動本部を設置し、地域と学校の連絡調整を行う地域コーディネーターを配置することで、地域住民等の参画を得ながら、様々な地域学校協働活動を行うもの。	
目的	
未来を担う子どもたちの成長を支え、「社会に開かれた教育課程」を実現するため、地域と学校が連携・協働し、社会総掛かりで教育を構築する。また、活動を通じて、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を育成するとともに、地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子どもたちが安心して暮らせる環境づくりを目的とする。	

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部の設置 ・学校と地域の連絡調整等を行う地域コーディネーターの配置 ・学習支援活動等をサポートする地域ボランティアの確保 		
事業費		
R 6	R 7	R 8
7,183 千円	8,220 千円	8,220 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	適切	見直し余地あり	適切
評価結果			
事業の目的や趣旨を考慮すると全校での設置が望ましいと考えられる。令和4年度は8校での配置となっており、全校での設置に向けて事業を進められたい。今後は、各小中学校や教育委員会との連携を密にすることで、事業の効率化についても図られたい。			

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	海と希望の学園推進事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/生涯学習・スポーツの振興	担当課	総合政策課
施策①	学びと実践が循環しつながり創出する生涯学習社会の形成	電話番号	0193-27-8413
施策②	大学や関係機関・団体等との連携強化	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	継続
4つの柱	教育の充実	補助・単独	補助
事業期間	令和5年度～令和7年度		
事業の概要			
第六次釜石市総合計画に掲げる「一人ひとりが学びあう」地域の実現に向け、市全体が学びの場となる「釜石オープンフィールドカレッジ」の考えのもと、国立大学法人東京大学をはじめとする圏域内高等教育機関等と連携し、交流イベントを行う。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題	
<p>当市には、岩手大学釜石キャンパス以外に高等教育機関の立地がなく、子どもから大人までが専門的な知見を得て学ぶ環境が十分とは言えない。そのような中、釜石市と東京大学が「連携協力の推進に関する覚書」を締結した。これをきっかけに、大学の知見を得ながら、シンポジウムや交流イベント等を共同開催することで、教育環境の充実や地域の人材育成を図ることが求められている。</p>	
目的	
<p>国立大学法人東京大学の知見を得ながら、シンポジウムや交流イベント等を共同開催することで、教育環境の充実を図るとともに、当市における大学のフィールドワークを推進しながら「釜石オープンフィールドカレッジ」を展開し、地域を牽引する人材の育成を図ることを目的とする。</p>	

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
<p>東京大学大気海洋研究所、社会科学研究所及び圏域内高等教育機関と連携し、①「海と希望の学園」を開催 ②トークイベント及び交流イベントを開催する。</p>		
事業費		
R 6	R 7	R 8
800 千円	0 千円	0 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	適切	見直し余地あり	適切
評価結果			
<p>東京大学などの高等教育機関と共同でイベントを開催し、釜石でしかできない体験や経験を提供できる体制が構築しつつある。オープンフィールドカレッジ構想を念頭に、さらなる事業の精査・連携を行われたい。</p>			

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	釜石ラグビーレガシー継承事業（コロナ対策分含む）		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/生涯学習・スポーツの振興	担当課	スポーツ推進課
施策①	豊かな生活と新たな価値を生み出すスポーツの推進	電話番号	27-5712
施策②	スポーツによる交流人口の創出	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	継続
4つの柱		補助・単独	単独
事業期間	令和2年度～令和8年度		
事業の概要			
ラグビーワールドカップ 2019 日本大会釜石開催のレガシーとして、参加した多くのボランティアやボランティア団体である釜石ラグビー応援団の活動補助や意欲向上のための取組を進めることで、ボランティアと継続したつながりによるラグビーを活用したまちづくりの発展を推進する。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題			
ラグビーワールドカップ 2019 釜石開催のレガシー（遺産）として、多くのボランティア参加者があり、これらボランティア登録者の釜石市との継続的なつながりが必要である。また、市民のスポーツボランティア団体である「釜石ラグビー応援団」は設立初期であり、他地域とのボランティア団体と連携した事業展開には、市の補助と介入が必要である。			
目的			
釜石ラグビー応援団を基軸とした、ラグビーワールドカップ 2019 ボランティア登録者との連携による、釜石鶴住居復興スタジアムを活用したボランティア事業を展開し、ラグビーワールドカップ 2019 釜石開催のレガシーとして、将来にわたり市民・県民に愛され続ける身近なスタジアムとして、多くの方々の手により維持管理されることのほか、ラグビーをはじめとする各種スポーツやイベント等幅広く有効活用する。			

3. 主な活動及び事業費

主な活動			
釜石ラグビー応援団への補助及びボランティア募集による釜石鶴住居復興スタジアムの利活用事業の展開			
事業費			
	R 6	R 7	R 8
	2,709 千円	2,709 千円	2,709 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	適切	見直し余地あり	適切
評価結果			
RWC2019 から続いているボランティア登録を維持すること、ボランティア参加者を増やすための取り組みを進めることは、スタジアムの持続的な活用が見込まれるだけでなく、交流人口の拡大による市内の経済波及効果にもつながることから持続的に実施すべき事業と考える。今後もボランティア参加者の満足度が高まるような事業を展開されたい。ラグビーカフェの運営にあたっては、来場者の満足度が高まる事業を展開し、来訪者の増加が見込めない場合は、運営規模の縮小等も検討されたい。			

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	ラグビーメモリアルイベント開催事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/生涯学習・スポーツの振興	担当課	スポーツ推進課
施策①	豊かな生活と新たな価値を生み出すスポーツの推進	電話番号	27-5712
施策②	スポーツによる交流人口の創出	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	継続
4つの柱		補助・単独	単独
事業期間	令和2年度～令和8年度		
事業の概要			
ラグビーワールドカップ2019日本大会釜石開催のレガシーを継承し、「ラグビーのまち釜石」の定着及び情報発信を行うとともに、ラグビーの価値を再認識しながら市民が未来への希望を紡ぐ機会とするため、関係団体が主催する記念イベント（釜石絆の日・ラグビビッグドリーム事業・メモリアルマッチ）にかかる経費を負担する。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題	
ラグビーワールドカップ2019日本大会の開催により、本市におけるラグビーの人気、価値がさらに高まったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、ラグビーイベントや鶴住居復興スタジアムでのイベントが減少しており、盛り上がりやにぎわいが減少している。ラグビーのまち釜石を実感できる、ラグビーに触れられる機会の創出が必要となっている。	
目的	
ラグビーワールドカップ2019のレガシーを継承し、ラグビーを生かしたまちづくりの推進・イメージアップ・定着を図り、市民の誇りと郷土愛を醸成するとともに、ラグビーを通じた交流人口の増大を図る。	

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県と連携し、イベントの成功および円滑な実施に向けて必要な活動を行うことを目的として、県内の関係機関等で構成される実行委員会（会長：釜石市長）を組織 ・交流試合や記念試合、ファンが集うイベント等各世代が楽しめるラグビーイベントの開催 		
事業費		
R 6	R 7	R 8
8,896 千円	8,896 千円	8,896 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	適切	適切	適切
評価結果			
「ナミビア対カナダ戦」を実施することで、交流人口の拡大やにぎわい創出が見込まれるため採択としたもの。ただし、関係機関との調整の上、事業の方向性や実施規模について引き続き検討をされたい。来年度については、代替の事業として今年度と同様、絆の日やラグビビッグドリーム事業を包含する形で実施し、ラグビーによる盛り上がりの創出を継続されたい。			

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	スポーツ合宿誘致推進事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/生涯学習・スポーツの振興	担当課	スポーツ推進課
施策①	豊かな生活と新たな価値を生み出すスポーツの推進	電話番号	27-5712
施策②	スポーツによる交流人口の創出	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	継続
4つの柱	教育の充実	補助・単独	単独
事業期間	令和2年度～令和8年度		
事業の概要			
釜石鶴住居復興スタジアム等を活用して市外・県外からのスポーツ団体合宿を誘致することにより、選手の育成や競技水準向上等スポーツ振興を図るとともに、誘致による交流人口の増大、にぎわい創出といったスポーツツーリズムの推進につなげるもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題	
人口減少、少子高齢化により、近年、市内中高生や一般の競技スポーツの水準が低迷しているとともに、施設の利用率が減少している。	
目的	
釜石鶴住居復興スタジアム等新たに整備した当市のスポーツ施設を活用し、市民の刺激、参考となる機会を創出することにより、選手の育成や競技水準の向上を図るとともに、スポーツツーリズムの推進を図る。	

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
市外の高校、大学等の運動部、企業等団体のスポーツ合宿を誘致する。		
事業費		
R 6	R 7	R 8
4,432 千円	4,432 千円	4,432 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	適切	見直し余地あり	適切
評価結果			
市内スポーツ施設を活用した合宿団体が増加することにより、スポーツ交流人口の拡大と経済波及効果が期待できることから継続して実施すべき事業であると考えます。市として厳しい財政状況下にあることを念頭に入れた上で、実施内容を精査し、最小限の予算規模で満足度を高めるための取り組みを検討されたい。			

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	日本代表釜石合宿等おもてなし事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/生涯学習・スポーツの振興	担当課	スポーツ推進課
施策①	豊かな生活と新たな価値を生み出すスポーツの推進	電話番号	0193-27-5712
施策②	スポーツによる交流人口の創出	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	継続
4つの柱		補助・単独	単独
事業期間	令和2年度～令和8年度		
事業の概要			
ラグビー日本代表等の合宿を当市に誘致開催し、子どもたちとその関係者らが代表選手とのラグビー教室等で交流するほか、代表選手等の紅白試合を広く市民に観戦公開すると同時に、市内では各種ボランティア関係者を巻き込んでのおもてなしの装飾や歓迎イベントを開催することで、ラグビーの聖地として、また、釜石ならではの学びの空間を創出するもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題			
ラグビーワールドカップ2019釜石開催により大きな開催レガシー（遺産）を得たものの、市民にラグビーまち釜石として、また釜石開催のレガシーを感じる機会が乏しく感じている。			
目的			
ラグビーワールドカップ2019釜石開催により「釜石鶴住居復興スタジアム」という大きな遺産を残すことができた。スタジアムの利活用が課題となるが、世界的に評価され情報発信されたことで、国内のラグビー部から合宿の要望が多数あるほか、日本ラグビーフットボール協会からも女子ラグビー日本代表チームの合宿利用の問い合わせがあり、国内トップチーム等の合宿を誘致し、選手との交流や、市民観戦を行う際の交流事業を開催するもの。			

3. 主な活動及び事業費

主な活動			
（公財）日本ラグビーフットボール協会へ、釜石ならではの心温まるおもてなしの取り組みを発信しながら誘致を決定的なものにし、実際の合宿期間では市民とのおもてなしの合宿プログラムや、代表内紅白戦の市民観戦を開催する。			
事業費			
R 6	R 7	R 8	
1,000 千円	1,000 千円	1,000 千円	

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	適切	適切	適切
評価結果			
ラグビー日本代表が当市で合宿を行うことで、市内外からの注目が高まり、「ラグビーのまちかまいし」としての価値が高まることとなり、市民、子どもたちとの交流事業を行うことができれば、釜石特有の学びの空間が創出されることになることから実施に向けた取り組みを進められたい。男子日本代表も視野に入れつつ、当面の間は実現性の高い女子ラグビー代表を誘致し事業を展開されたい。			

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	ラグビーによる人材育成事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/生涯学習・スポーツの振興	担当課	スポーツ推進課
施策①	豊かな生活と新たな価値を生み出すスポーツの推進	電話番号	0193-27-5712
施策②	スポーツ関係団体等との連携強化	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	継続
4つの柱	教育の充実	補助・単独	補助
事業期間	令和2年度～令和8年度		
事業の概要			
ラグビーワールドカップ 2019 のレガシーを次世代を担う子どもたちに引継ぎ、市内の小中学生がラグビーの魅力や楽しさに触れながら、心身の健康増進や体力の向上を図るとともに、世界に誇れる「ラグビーのまち釜石」としてのプライドを持った子どもたちの育成を図るもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題
ラグビーワールドカップを通して世界とつながった若い世代が、「世界の KAMAISHI」の市民としてのプライドの醸成が必要。
目的
ラグビーワールドカップで世界とつながった若い世代が継続的に世界とつながりを持てる機会をスタジアムから創造していくと同時に、釜石市民同士のつながりと世界に誇れるラグビーのまち釜石市民としてのプライドを持った子供たちの育成。

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
「ラグビーのまち釜石教室」の実施		
事業費		
R 6	R 7	R 8
938 千円	938 千円	938 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	適切	適切	適切
評価結果			
RWC2019 のレガシーを引継ぎ、子どもたちが楽しくラグビーを学ぶことで、豊かな心の育成へとつながるものと期待できる。また、身近に高いレベルのラグビーに触れ、選手をより身近に感じ、交流が図られることは、釜石市の特色を有効に活かした事業であり、今後も各校のニーズを把握しつつ、子どもたちや学校等の満足度を高め、継続して実施すべきものと考えられる。			

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	スタジアムコンサート誘致推進事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/生涯学習・スポーツの振興	担当課	スポーツ推進課
施策①	豊かな生活と新たな価値を生み出すスポーツの推進	電話番号	193275712
施策②	スポーツ施設の利用促進	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	新規
4つの柱		補助・単独	単独
事業期間	令和6年度～令和6年度		
事業の概要			
釜石鶴住居復興スタジアムはスポーツによる利活用のほか芸術文化にも活用されるべく建設され、これまで多種多様なイベント開催で多くの人たちが楽しめる空間を創出してきたが、開催が実現できていないものに「スタジアムコンサート」がある。この度、スタジアムで1,000人規模のコンサート開催の打診があったことから誘致開催しようとするもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題			
釜石鶴住居復興スタジアムはスポーツによる利活用のほか、芸術文化のイベントでも活用されるよう建設され、これまでラグビーイベント以外でも多様なイベントを誘致し、市民及び市外の多くの人たちが楽しめる空間を創出してきた。市民からは音楽フェスやコンサートの開催を望む声が多くあるが実現出来ていない。ラグビー以外でのスタジアムの利活用方法を発信しながら、賑わいの創出や交流人口・関係人口拡大で満足度の高い施設利用を推進したいもの。			
目的			
釜石鶴住居復興スタジアムを取り巻く多くの関係者や市民からは、いつかスタジアムでコンサートを。と要望されているが実現できていない。開催に支障となるのは、コンサート仕様とするための、芝生保護材設置であるが、このような大がかりな仕様を必要としないアーティストグループ招聘により、釜石特有のスタジアムコンサートを開催しようとするもの。			

3. 主な活動及び事業費

主な活動			
釜石鶴住居復興スタジアムでのコンサートイベント開催の可能性のある音楽アーティストと、直接または間接的に交渉のうえ、まずは1,000～1,500人規模のスタジアムコンサートを計画するもの。			
事業費			
R 6	R 7	R 8	
4,000 千円	0 千円	0 千円	

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	見直し余地あり	適切	見直し余地あり
評価結果			
ライブを開催することによってスタジアムの新たな活用方法が構築され、1000人規模のイベントとなることから市内の経済活性化も期待できる。しかしながら継続性が保証されておらず、一回きりとならないような事業として実施されたい。			

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	体育施設整備事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/生涯学習・スポーツの振興	担当課	スポーツ推進課
施策①	豊かな生活と新たな価値を生み出すスポーツの推進	電話番号	0193-27-5712
施策②	スポーツ施設の利用促進	ハード・ソフト	ハード
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	継続
4つの柱	教育の充実	補助・単独	補助
事業期間	平成31年度～令和8年度		
事業の概要			
既存施設の経年劣化により施設の老朽化が進んでいることから、市民のスポーツ環境を向上させるため、市民・利用団体が安心・快適に利用できるよう各施設の修繕を行うもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題
既存の施設の経年劣化による施設の老朽化が進んでおり、改修工事を要望する声が多く寄せられている。
目的
施設を利用する市民・競技団体が安心・快適に利用できる施設整備を行うことで利用者の満足度の向上を目指すとともに、より多くの市民が体育施設を利用することで、市民の健康増進への意識向上を目指すもの。

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
①テニスコート新設工事 ②釜石市球技場サッカーピッチ人工芝改修工事 ③平田公園野球場及び釜石市球技場照明設備 LED リース		
事業費		
R 6	R 7	R 8
0 千円	335,717 千円	21,564 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	見直し余地あり	見直し余地あり	見直し余地あり
評価結果			
市内のスポーツ環境の充実やスポーツ人口の拡大に向けた取組としてはいい事業であるが、関係人口の調査や事業内容、財源の精査がされていないことから引き続き内容を精査されたい。			